

他施設共同研究

「医療連携パスによるアレルギー診療の質・患者満足度向上に関する検討」

【倫理番号】 HM21-413 (藤田医科大学)
 【実施期間】 2020年9月～現在継続中
 【登録数】 24件

＜スケジュール＞

1. モデル検証研究
2. 課題発掘
3. 改善/関連団体と連携
4. 実用化プラン検証
5. 実用化

本研究では、検査結果などの断片的な記録だけでなく、担当医の診療の意向（治療方針、指導内容など）も含め、また患者自身による診療経過や思いについても積極的に情報共有することで、診療の質や患者満足度が向上するかを検討する。

その後、良い影響を与えた要素を特定し、それが恒常的に活用できる仕組み・体制を構築することで、今後も増加するであろうアレルギー疾患患者の診療の質の向上、および患者QOLの向上に貢献する。

県拠点病院（6施設）

アレルギー専門医のいる医療施設

6か月後 1年後

藤田医科大学ばんだね病院
 （連絡会委員長・協議会事務局）

名古屋大学医学部附属病院

名古屋市立大学病院

愛知医科大学病院

藤田医科大学病院

あいち小児保健医療総合センター

医療連携パス



非専門医のかかりつけ医など

拠点病院・連携医療機関・患者

それぞれに連携パスを行ったことについてのアンケートを実施

- ・診療に掛かる時間
- ・医療の質が向上
- ・情報共有のスムーズさ
- ・診療の容易性・正確性
- ・病状の(治療の)コントロール
- ・信頼関係
- ・疾患の理解度
- ・診療の満足度 など

病診連携でのアレルギー診療の質・患者満足度向上を目的に、愛知県アレルギー疾患対策医療拠点6病院と連携医療機関で連携パス（紙媒体）の有効性を検討した。

研究開始前との比較を開始6ヶ月後、1年後に、拠点病院、連携医療機関、患者に対しアンケートで調査した。全体として診療の質、患者満足度の向上が見られたが、一部で診療時間の延長が見られた。本目的に連携パスは有用であるが、電子システムの導入など運用の簡便化が課題と考えられた。